

第 28 回日本骨代謝学会学術集会 開催案内

会 期： 2010 年 7 月 21 日(水)～7 月 23 日(金)

会 場： 京王プラザホテル

会 長： 東京女子医科大学産婦人科学教室

太田 博明

ホームページ： <http://jsbmr28.umin.jp/>

演題募集期間： 2010 年 2 月 18 日(木)～4 月 20 日(火)

会長挨拶： 第 28 回日本骨代謝学会開催にあたって

東京女子医科大学産婦人科学教室
太田 博明

この度、平成 22 年 7 月 21 日(水)～23 日(金)に東京新宿の京王プラザホテルにて開催されます第 28 回日本骨代謝学会学術集会会長を務めさせていただくことになりました。わが国における骨代謝研究を長年に亘り、リードするとともに世界へ向けて発信して参りました本学会を主催させていただくことを大変光栄に思うとともに、骨粗鬆症を中心に女性医療に携わって参りました産婦人科の一臨床医が担当させていただくことに責任の重さを強く感じております。

日本骨代謝学会(JSBMR)は基礎系とともに内科系臨床、外科系臨床、歯科系臨床など、幅広い領域から研究者や臨床医が一堂に会し、各種の観点から活発なディスカッションがなされる点で特異的な学会であります。JSBMR における切磋琢磨により、わが国から発信された骨代謝研究は ASBMR においても高い評価を得、各種の賞を受賞しております。また JSBMR の official Journal である JBMM も現 Editor-in-Chief であります清野佳紀 先生はじめ、歴代の関係各位の多大なご尽力と先を見据えた編集方針により、海外からの投稿論文の掲載が半数を優に超え、Impact Factor も徐々に上がってきているという実績につながっております。

このように JBMR の海外評価もあり、今回の本学会におきましても、海外から著明な講演者をお迎えすることができ、わが国からも世界に誇る研究者の方々にご講演のご快諾をいただいております。これらも JSBMR の役員を中心としたプログラム委員各位によるご指導・ご協力の賜物と感謝致しております。

また、第 26 回の松本俊夫会長が新たに取り入れられた、あり方委員会(加藤茂明 委員長)企画による若年を中心とするシンポジウムと Meet-the-Experts も 3 年目を迎え、新進気鋭の研究者を交え、更に活発な討論がなされることが期待されます。これらに加え、杉本利嗣理事を委員長とする臨床プログラム推進委員会企画によるシンポジウムでは臨床と基礎との情報交換や交流の場になることを期待しております。また、本学会の重要な課題の 1 つとして国際交流がありますが、KSBM(韓国骨代謝学会)ならびに KSO(韓国骨粗鬆症学会)とのジョイントシンポジウムも 3 年目を迎えております。韓国側にも積極的にご協力いただいておりますので、このシンポジウムを契機に両国の更なる絆を深めていただきたく、会員ならびにご参加の皆様には奮ってご参加・ご討論いただきたいと思います。

また、新たにカレントコンセプトという 60 分セッションを設け、基礎と臨床を相互にご理解いただく場を設けさせていただいたつもりです。臨床医にとって、本学会はやや敷居の高い感じがするのご意見を時にお聞きしますが、基礎研究者の方々も臨床では今、何が課題や問題になっているかを知りたいという願望がおありのようです。骨代謝研究を 1 つの key word に基礎と臨床との相互交流を深めることが本学会の重要な使命の 1 つとなっておりますので、今までご参加されなかった基礎研究者や臨床医の方々のご参加も心からお待ちしております。

第 28 回の本学会では 1 人でも多くの方々にこの骨代謝領域への関心を持っていただき、「今、この領域は面白く、興味が尽きない」と実感していただければ、会長としての責務の一端を果たせるかと考えております。7 月 21 日には京王プラザホテルにてお待ちしておりますので、演題登録ならびにご参加の程よろしくお願ひ申し上げます。

*新しい情報、学会内容はホームページ(<http://jsbmr28.umin.jp/>)に随時掲載、更新いたします。

2009 年度 日本骨代謝学会 会務報告

(2009 年 4 月～2009 年 7 月末)

■2009 年度 第 1 回理事会議事録■

日 時: 2009 年 6 月 5 日(金) 14 時 00 分～17 時 00 分

会 場: 東京国際フォーラム 4 階 G410 会議室

議 事:

2008 年度第 3 回理事会議事録(案)の承認

2009 年 2 月 28 日に開催された 2008 年度第 3 回理事会議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。なお、本理事会の議事録署名人は、福永理事、水沼理事が担当することとした。

<報告事項>

1. 庶務報告

水沼理事より、2009 年 5 月 31 日時点での会員数、会費納入状況、および 2008 年度入退会者の内訳について報告があり、現賛助会員一覧の提示があった。また、協和発酵キリン(株)より 2009 年度から口数減額の申し出のあった旨報告があり、承認した。

3. 各種委員会報告

1) あり方委員会

加藤委員長より、第 27 回学術集会で予定しているあり方委員会シンポジウムについて報告があった。なお、本シンポジウムおよび基礎と臨床の入門的な内容を扱う「Meet the Expert Session」については、来年度学術集会においても継続して実施する旨、確認した。

2) 国際渉外委員会

米田委員長より、本理事会直前に委員会を開催した旨、主に以下の報告があった。

・Sydney IBMS の会期中に第 1 回 Asian Session を 3 月 21 日(土)の 14 時～16 時に開催した。韓国、インド、シンガポール、タイ、日本の 5 カ国より講演者を迎え、参加者は 34 名であり、参加者の出身国ではオーストラリア、ベルギーなども含まれていた。予想以上に盛況であり、ぜひ継続して開催してほしいとの声があった。

・第 27 回学術集会にて開催される日韓合同シンポジウムでは、日本からの演者は加藤茂明先生(東京大学分子細胞生物学研究所)、藤原佐枝子先生(放射線影響研究所)を予定している。

3) JBMM 編集委員会

清野編集委員長より、JBMM の編集状況について主に以下の報告があった。

・2009 年 5 月 26 日時点の投稿数は 83 編であり、国別の主な

内訳は中国 18 編、EU18 編、日本 14 編、USA9 編となっている。

・JBMM 論文賞の審査資料として、掲載論文の引用回数を調査することとなったが、回数の多い論文の著者で非会員が少なくないことから、投稿時に本賞をアナウンスし、入会を促したい。

・投稿者の入会を促すため、カラーページ費用の著者負担額について、会員と非会員の区別を設ける予定である。

なお、清野編集委員長より、JBMM 編集事務局を置いているアポプラスステーション(株)が学会誌編集業務から撤退することとなったため、査読・編集業務の円滑な引き継ぎを考慮し、学会事務局に移管したい旨の提案があり、承認した。

4) 臨床プログラム推進委員会

杉本委員長より、現在、血清 25OHD 基準値の設定、骨軟化症、軟骨代謝マーカー、妊娠と骨、運動と骨、などのテーマを扱っており、次回学術集会会期中に委員会を開催する旨、報告があった。

5) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会

太田理事より、熊本委員を中心に行っている QOL 評価質問表 2000 年度版の妥当性検証の論文の改訂作業について、現在 minor revision まで達しており、6 月中に再々投稿する予定である旨、報告があった。

6) 骨密度基準値設定委員会

福永委員長より、骨密度基準値の追加データの提示と説明があった。ほぼ全てのデータが揃ったことから、今後 JBMM への掲載を進めていく旨、確認した。

7) 広報委員会

萩野委員長より、本委員会の活動について、主に以下の報告があった。

・5 月 14 日(木)～17 日(日)に開催された第 82 回日本整形外科学会学術総会において昨年に引き続き骨代謝学会特別ポスターの展示を行った。内容は、整形外科関連の各賞受賞者より研究テーマの紹介を中心に作成した。

・一般の方向けのホームページ作成について、提出のあった原稿から随時掲載していく予定である。

8) ビスフォスフォネート顎骨壊死検討委員会(米田委員長)

米田委員長より、6 月 26 日(金)に委員会を開催し、Position Paper の日本語版最終原稿の作成を行い、第 27 回学術集会の最終日(7 月 25 日(土)午後)に委員会報告として発表する予定である旨、報告があった。JBMM へは Perspective として投稿する旨、確認した。

9) ステロイド性骨粗鬆症診断基準検討委員会

松本理事長より、同委員会について第 27 回学術集会期間中に第 1 回委員会を開催し、2004 年度版ガイドラインの改訂について協議する予定である旨、報告があった。

3. 第 26 回日本骨代謝学会報告

松本理事長より、第 26 回学術集会の参加者数および収支決算報告について報告があった。骨粗鬆症学会との合同開催

による会場費の節減や展示企業の増加等により剰余金が発生した旨、説明があり、剰余金については一部をIBMS-ANZBMS トラベル基金に補填の上、特別会計(国際交流基金)に寄付した旨、報告があった。

会期の日程が従来より長くなったため、参加者の大幅な増加には至らなかったが、骨粗鬆症学会との合同開催について意義があった旨を確認し、機会があれば再度実施してはどうかとの提案があり、了承した。

4. 第27回日本骨代謝学会準備状況について

米田会長より、第27回学術集会について主に以下の報告があった。

- ・シンポジウム(3セッション)、イブニングシンポジウム(3セッション)、ミニシンポジウム(11セッション)、ランチョンセミナー(9セッション)、Meet the Expert(6セッション)については、プログラムをほぼ決定し、近日中に Web 上で公開予定である。
- ・基礎と臨床の参加者が双方向に情報交換可能な場となるよう、プログラムを企画した。
- ・「顎骨壊死の状態の理解と対応」というテーマでパネルディスカッションを追加した。
- ・日韓合同シンポジウムは、本会と KSO、KSBMR の3学会合同で開催する予定である。
- ・一般演題は233演題の応募があり、口演125演題、ポスター108演題を予定している。
- ・ポスター演題で高得点のものが多かったことから、優秀ポスター賞を11題採択し、受賞ポスターのみのポスターディスカッションを設ける予定である。
- ・Asian Travel Award を中国・韓国より1演題ずつ採択する予定である。
- ・懇親企画として、ビスフォスフォネート情報交換会、懇親会の他に日韓合同シンポジウム、優秀ポスター賞のディスカッション(軽食付き)を設ける予定である。
- ・抄録集の事前発送が不可能なため、主題抄録をパスワード付きの PDF ファイルとして掲載する予定である。

松本理事長より、海外からの参加者を考慮し、英語版の簡単なプログラムページを作成してはどうかとの提案があった。

5. 第28回日本骨代謝学会準備状況について

太田第28回会長より、第28回学術集会について、2010年7月21日(水)～23日(金)に京王プラザホテルで開催する予定である旨、報告があった。また、第28回プログラム委員の紹介があり、7月22日(水)に第1回プログラム委員会を開催する予定である旨、説明があった。

6. 椎体骨折アンケートについて

福永理事より、椎体骨折の診断基準について3月に日本骨代謝学会、日本骨粗鬆症学会、日本骨形態計測学会の評議員へアンケートの協力を依頼したところ、撮り方について、ポイントについて、X線写真による椎体骨折判定、疫学調査など様々な問題点が指摘された旨、報告があった。なお、3

学会の会員より構成する委員会を設立し、これらの意見を参考に椎体骨折の診断基準について協議していく旨、報告があり、承認した。

7. その他

a.) 学会誌掲載論文の転載許可について

松本理事長より2008年度第3回理事会終了後に依頼のあった「原発性骨粗鬆症の診断基準」の転載依頼2件について報告があり、承認した。

b.) 医療技術再評価提案書について

松本理事長より、大腿骨の骨密度測定が非常に低い点数であることから、内科系学会保険連合(内保連)へ日本骨粗鬆症学会と合同で要望書を提出した旨、報告があり、了承した。

c.) 新公益法人の本学会の対応について

松本理事長より、日本学術会議から「学協会の新公益法人制度への対応の現状と課題」のシンポジウム開催の案内が届いた旨報告があった。本会は、会員数が少ないことやその他の制度上の基準においても、資格を満たすことが困難なことから、当面は法人化の申請をしない旨、了承した。

<審議事項>

1. 2008年度収支決算報告(案)について

吉川理事より、2008年度収支決算報告(案)について主に以下の報告があり承認した。

<一般会計>

- ・会費収入は正会員、学生会員が会員数減少により、予算より減収となった。
- ・科研費補助金について530万円の採択があった。
- ・雑収入について、JBMM 通常許諾料の他に骨粗鬆症の予防と治療ガイドライン収入等があり、予算より大幅な増収となった。
- ・JBMM 別刷販売についてステロイドガイドラインの転載使用依頼があり、約124万円の収入があった。
- ・JBMM 別刷販売について転載使用依頼があり、予算より増収となった。
- ・会誌刊行費について、ページ数の増加により、210万円ほど増額した。
- ・単年度の収支は、14,544円の赤字決算であった。

<特別会計・国際学術交流基金>

- ・松本第26回会長より、大会剰余金約4,068,879万円の上納があり、次年度繰越金が41,669,192円となった。

<特別会計・IBMS-ANZBMS トラベル基金>

- ・5社より協賛があり、一部を第26回学術集会より補填した形で収入合計は3,618,900円であった。
- ・第26回学術集会演題応募者の中で上位25名を受賞者とし

(1名は辞退)、1名あたり15万円ずつTravel Awardを支給した。

・本会計は、2008年度で終了した。

2. 2008年度会計監査について

太田監事より、清野、太田両監事が、それぞれ会計監査を行ない、帳簿、伝票および銀行口座残高など資料を確認した結果、経理は適正に執行されていることが報告された。

3. 2009年度予算(案)について

吉川理事より、2009年度予算(案)について、主に以下の報告があり承認した。

- ・会費収入については会員納入率を正会員88%、学生会員65%として計上した。
- ・科学研究費補助金について、日本学術振興会より、530万円の交付内定があった。
- ・会誌刊行費についてページ数増額による刊行費および郵送費として275万円増額した。

単年度収支では、約195万円の赤字予算となるが、学会誌のオンライン化についてのアンケートを実施し、対策を検討することとした。

4. 学術賞・研究奨励賞・優秀演題賞・JBMM論文賞の選考について

松本理事長より、各賞応募者の提示があり、事前審査および本理事会での協議の結果、下記の候補者を今年度の受賞とする旨、承認した。

【学術賞】

<内科系>

伊東 昌子 (長崎大学医学部・歯学部附属病院放射線部)

<基礎系>

高柳 広 (東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学)

<基礎系>

鄭 雄一 (東京大学大学院工学系研究科バイオエンジニアリング専攻)

・外科系からの応募がなかったため、基礎系の受賞者を2名とする旨、全会一致で承認した。

【研究奨励賞】

<内科系>

八十田明宏 (京都大学医学部附属病院内分泌代謝内科)

<外科系> 仲村 一郎 (湯河原厚生年金病院リウマチ科)

<外科系> 宮本 健史 (慶應義塾大学医学部整形外科)

【優秀演題賞】

<基礎系>

延 ミン榮 (東京大学分子細胞生物学研究所)

<基礎系>

村上 智彦 (宮崎大学医学部解剖学講座分子細胞生物学分野)

<臨床系>

平田 真 (東京大学大学院医学系研究科感覚運動機能外科)

<臨床系>

森岡 和仁 (東京大学医学部整形外科)

【JBMM論文賞】

藤巻 亮二 (佐野厚生総合病院整形外科)

5. 学会賞の選考について

吉川理事より、高岡邦夫元理事を推薦したいとの提案があり、全会一致で承認した。

6. 役員の改選について

松本理事長より、今年度の総会で任期満了となる理事の提示があった。次期役員候補者について協議した結果、従来は各系で候補者を選出していたが、分野を超えて相応しい候補者の推薦を募ってはどうかとの提案があり、次回理事会までに、各理事より事務局へ推薦者氏名および推薦理由等を提出することとなった。

7. 第14回国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)サテライトシンポジウムの開催について

大菌理事より、第14回国際内分泌学会終了後の2010年3月31日に開催する骨代謝サテライトシンポジウムの企画内容について報告があり、了承した。

8. IBMS2013開催について

野田理事より、3月にシドニーで開催されたIBMS期間中にIBMS2013の準備委員会を開催した旨、議事要旨に基づき報告があった。日程および会場については引き続き審議していくこととした。

■2009年度第2回理事会議事録■

日時: 2009年7月22日(水) 15時00分~17時30分

会場: 大阪国際会議場 11階 1102会議室

議事:

2009年度第1回理事会議事録(案)の承認

2009年6月5日に開催された2009年度第1回理事会議事録(案)について内容を確認のうえ、承認した。なお、本理事会の議事録署名人は、吉川理事、米田理事が担当することとした。

<報告事項>

1. 庶務報告

野田理事より、2009年6月30日時点での会員数および会費納入状況について報告があり、了承した。なお、日本たばこ産業(株)およびロシュ・ダイアグノスティクス(株)より賛助会員入会申込があった旨、報告があった。

2. 会計報告

吉川理事より、2009年6月30日時点での会計中間報告があり、承認した。

3. 各種委員会報告

1) あり方委員会

加藤委員長より、第27回学術集会最終日の7月25日に委員会を開催する旨、報告があった。

2) 国際渉外委員会

米田委員長より、ANZBMSより、2011年9月2日～5日の大会を本会と合同開催にしたいとの提案があった旨報告があり、了承した。

3) JBMM 編集委員会

松本理事長より、JBMM の編集状況について主に以下の報告があった。

- ・投稿数は7月15日時点で118編となっており、国別の主な内訳は中国21編、EU32編、日本26編、USA13編となっている。
- ・JBMM 論文賞は、「Involvement of notch signaling in initiation of prechondrogenic condensation and nodule formation in limb bud micromass cultures」Vol.24(3) p.191-198, 2006の筆頭著者、藤巻 亮二先生(佐野厚生総合病院整形外科)に授与予定である。
- ・2008年度のインパクト・ファクターは2.10であった。今年から5年インパクト・ファクターの値も発表されるようになり、2.173であった。
- ・制作費についてシュプリンガーと交渉を行った結果、Author Index の省略や紙の質をより安価なものにすることで経費節減を計画している。

4) 臨床プログラム推進委員会

杉本委員長より、本日午後6時30分より委員会を開催し、6つのプロジェクトについて協議する予定である旨、報告があった。

5) 骨粗鬆症患者 QOL 評価検討委員会

太田監事より、QOL 評価質問表 2000 年度版の妥当性検証の論文の再々投稿について査読中である旨、報告があった。また、10月の骨粗鬆症学会会期中に委員会を開催する予定である旨、報告があった。

6) 骨密度基準値設定委員会

福永委員長より、骨密度基準値のデータがそろい、論文化の準備を進めている旨、報告があった。

7) 広報委員会

萩野委員長より、一般の方向けページ作成の進捗について報告があった。また、学術集学会期中に委員会を開催し、広報活動について協議する予定である旨、報告があった。

8) ビスフォスフォネート顎骨壊死検討委員会

米田委員長より、6月26日(金)の委員会で Position Paper の草案が完成し、第27回学術集会の最終日(7月25日(土)午後)のシンポジウム「顎骨壊死:病態の理解と対応」に委員会報告として発表する予定である旨、報告があった。また、JBMM へは本草案を約半分に要約したものを Perspective として投稿する旨、合わせて報告があった。

9) ステロイド性骨粗鬆症診断基準検討委員会

松本理事長より、7月25日(土)に第1回委員会を開催し、改訂について協議する予定である旨、報告があった。

10) 椎体骨折評価委員会について

福永理事より、7月23日(木)に第1回委員会を開催し、骨粗鬆症性の骨折化、それ以外の変形化、CT、MRI の区別等について森委員長を中心に協議する予定である旨、報告があった。本会からの代表委員は宗圓理事、萩野理事である旨、合わせて報告があった。

3. 第28回日本骨代謝学会準備状況について

太田第28回会長より、第28回学術集会について、2010年7月21日(水)～23日(金)に京王プラザホテルで開催予定である旨、報告があった。また、評議員からのアンケート回答をもとに特別講演、シンポジウム等の企画を検討している旨、説明があった。

4. 第29回日本骨代謝学会準備状況について

大藪第29回会長より、第29回学術集会について2011年7月28日(木)～30日(土)に大阪国際会議場にて開催予定である旨、報告があった。

5. 第14国際内分泌学会(ICE2010-Kyoto)骨代謝サテライトシンポジウムについて

大藪実行委員長より、骨代謝サテライトシンポジウムについて、2010年3月31日(水)午後大阪国際会議場で開催する予定である旨、報告があり、講演予定者8名について紹介があった。

<審議事項>

1. 第30回(2012年)学術集会および第31回(2013年)学術集会会長選出について

松本理事長より、2012年度(第30回)学術集会会長について、基礎系の担当であることから加藤理事、野田理事のいずれかを推薦したい旨、提案があり、全会一致で加藤理事に決定した。

なお、松本理事長より、2013年はIBMSと合同開催となりJapan Dayの準備が必要なことから、通常は3年先までの会長を決定しているところ、1年前倒しでの会長を決定してはど

うかとの提案があった。外科系の担当であることから、協議した結果、全会一致で吉川理事に決定した。

2. IBMS 2013 について

野田理事より、日程および会場について2013年5月27日～6月1日に神戸国際会議場およびポートピアホテルを確保した旨の報告があり、日本整形外科学会および日本骨形態計測学会など関連学会へは、本日程を予め連絡する旨、承認した。また、野田理事より、組織委員会のメンバーについては新役員を中心に構成する予定である旨、報告があり、理事各位へ協力依頼があった。

3. 新評議員の選出について

松本理事長より、以下の評議員候補者について、履歴書および業績目録など資料に基づき報告があり、全会一致で承認した。(水沼英樹先生については追認)

井樋 栄二先生 (東北大学大学院医学系研究科医科学専攻外科病態学講座整形外科学分野)

水沼 英樹先生 (弘前大学医学部産婦人科)

4. 役員の交替について

松本理事長より、大菌理事(内科系)、福永理事(内科系)、吉川理事(外科系)、野田理事(基礎系)の4名が任期満了となる旨報告があった。また、前回理事会以降に、新理事候補者の推薦を募った結果、内科系6名(改選枠2名)、外科系3名(改選枠1名)、基礎系3名(改選枠1名)の候補者推薦があった旨、報告があった。

理事・監事による投票の結果、下記の候補者を理事会の満場一致で選出し、評議員会・総会に諮ることとした。

【新役員候補】

理 事:

<内科系>

- ・大菌 恵一 → 伊藤 昌子(長崎大・放射線部)
- ・杉本 利嗣 → (留任)
- ・福永 仁夫 → 田中 良哉(産業医大・第一内科)
- ・松本 俊夫 → (留任)

<外科系>

- ・宗圓 聡 → (留任)
- ・水沼 英樹 → (留任)
- ・萩野 浩 → (留任)
- ・吉川 秀樹 → 井樋 栄二(東北大・院・整形外科)

<基礎系>

- ・加藤 茂明 → (留任)
- ・米田 俊之 → (留任)
- ・野田 政樹 → 小守 壽文(長崎大・院・顎口腔細胞生物学分野)

・山口 朗 → (留任)

監 事:

- ・太田 博明 → (留任)
- ・清野 佳紀 → (留任)

なお、次回以降の役員の交替および新役員選出については、年度第1回目の理事会で候補者が最終決定するようスケジュールを前倒しすることとした。

5. テリパラチドの早期承認ならびに在宅自己注射保険適用の厚労省要望書について

松本理事長より、日本イーライリリー社より届いたテリパラチドの早期承認ならびに在宅自己注射保険適用の厚労省宛て要望書について報告があった。また、同要望書について日本整形外科学会からも提出した旨、説明があった。協議した結果、本会からの要望書の趣旨としては、(1)本薬剤の早期承認についておよび(2)在宅自己注射の保険適用となっており、初めての骨形成促進薬であること等をふまえ、要望書を提出する旨、承認した。

■2009年度第3回理事会議事録■

日 時: 2009年7月23日(木) 7時30分～8時30分

会 場: 大阪国際会議場 8階 801会議室

議 事:

松本前理事長より、前日の2009年度第2回理事会で承認された新理事4名の紹介があった。続いて新理事より就任の挨拶があった。

1. 議長の選出

本理事会の議長について松本前理事長を選出した。

2. 理事長・副理事長の選出

新理事長および副理事長の選出について協議した結果、下記のとおり全会一致で承認した。

理事長 米田俊之
副理事長 松本俊夫

米田新理事長より、就任の抱負が述べられた。

3. 理事担当役について

理事担当役について協議した結果、理事担当役ならびに各種委員会委員長について下記の体制で進める旨、全会一致で承認した。

<理事担当役>

理事長 米田 俊之
副理事長 松本 俊夫
理 事 (庶務) 井樋 栄二
(庶務) 山口 朗
(財務) 杉本 利嗣
(財務) 水沼 英樹
(学会誌) 田中 良哉
(広報) 萩野 浩
(渉外) 宗圓 聡
(渉外) 伊東 昌子

(学術) 小守 壽文
 (学術) 加藤 茂明
 監 事 太田 博明
 清野 佳紀

<各種委員会委員長>

あり方委員会	加藤 茂明
国際渉外委員会	福本 誠二
JBMM 編集委員会	清野 佳紀
臨床プログラム推進委員会	杉本 利嗣
骨粗鬆症患者 QOL 評価委員会	遠藤 直人
骨密度基準値設定委員会	福永 仁夫
広報委員会	萩野 浩
BP 製剤顎骨壊死検討委員会	米田 俊之
ステロイド性骨粗鬆症管理と治療ガイドライン 改訂委員会	名和田 新 宗圓 聡
椎体骨折評価委員会(代表委員)	宗圓 聡 萩野 浩

■各種委員会■

<第25回 JBMM 編集委員会>

日 時: 2009年6月5日(金)13:00~14:00
 場 所: 東京国際フォーラム 410号室
 出席者: 編集委員長:清野佳紀
 Associate editors:大藪恵一、杉本利嗣、中村利孝、野田政樹、
 福永仁夫、松本俊夫(理事長)、吉川秀樹、米田俊之
 編集秘書:五郎大由似子
 欠席者:Associate editors:遠藤直人、加藤茂明、田中良哉、
 細井孝之、山口 朗

清野佳紀委員長より資料に基づき説明があり、以下の事項を承認した。

1. 発行準備状況

27巻3号を5月に予定どおり発行した。
 27巻4号以降掲載論文は50論文が決定しており、順次、掲載する予定である。
 27巻よりオンラインファーストによる制作を導入し、3号までの論文は、冊子発行前にオンラインファーストへ搭載した。4号以降掲載予定の44論文もオンラインファーストに準備が出来次第搭載している。

2. 投稿状況

2009年1月1日~5月26日までに86編の投稿があった。前年同期は97編で、投稿数が1割減少している。国別内訳は海外からの投稿が72編、国内からの投稿が14編である。なお、採択率は論文内容にもよるが、昨年と同程度(45~50%)程度とすることを確認した。現在は81編が審査中である。

3. レビュー執筆依頼について

第27回日本骨代謝学会レビュー執筆を依頼していた Dr. Folkman が逝去されたことを米田委員が指摘した。一覧に掲載している名前はずいぶん以前に、論文を依頼しており、再度ご執筆いただけるか確認することにする。

4. JBMM Best Paper Award 受賞者候補

JBMM Best Paper Award 受賞者は、筆頭著者が日本骨代謝学会正会員であることを前提とし、過去3年間掲載したなかで最も引用回数が多い論文を選ぶことを確認した。日本骨代謝学会時に受賞者を表彰し、JBMM に Announcement で掲載する。

5. JBMM 発行について

Editorial Managerを導入以来、投稿数が6割以上増え、掲載論文が増加しており、予算より制作費等が嵩んでいる。正会員は増加しておらず、JBMM 掲載著者の多くが非会員であることが際立っている。

カラー印刷掲載料金に非会員料金を設定し、徴収することを提案された。

また、JBMM 発行について、今後オンラインを中心とし、冊子印刷部数を減らすことを検討している。冊子体を希望している会員数を把握するため、会員へアンケートを送付することを理事会へ提案することとした。

なお、科研費の採択は制作費の補助に大きく寄与しているので、引き続き採択されることを期待している。そのためには冊子体を完全に発行停止させるわけにはいかない。

6. 編集事務局移転予定

アポプラスステーション(株)より、JBMM 編集事務の契約を2010年3月に解除したい旨の申し入れがあったことを清野編集委員長が報告した。次の編集事務局を学会事務局があるアカデミックスクエアへ置く予定であることを説明した。引継ぎは編集事務局五郎大さんより学会担当中倉さんへ今年末から行う予定である。

7. その他

- 却下論文が再投稿になった時に知る方法を委員より質問があった。今のところ、Action link, Detail 中の Comment to authors を読むのみが方法であることを事務局が解答した。却下論文の再投稿は、新規論文として取り扱うこととしている。
 ⇒編集委員会後、シュプリンガーへ再投稿であることを著者が投稿時に示すボタンを作成するよう依頼した。当面、「Rejected but resubmitted」フラッグを作成し、再投稿とわかった場合、Detail にフラッグを付与できるようにした。
- 「投稿論文を2回以上改訂の依頼をした後に「却下」することは、避けること」を申し合わせた。
- 元来、レフェリーは原則1名で、Associate editor がレフェリー1名を兼務し、審査することになっている。Associate editor がレフェリーを兼務できない場合、レフェリーを計2名にしてもよい。レフェリーを敢えて2名に選ぶ必要はない。
- 配布資料によると、Editorial Manager 導入後の投稿(2007.1.1~2009.5.26)は、579論文が投稿され、内訳は海外(50ヶ国)が69%、日本は31%、採択率は全投稿論文が40%、日本の論

文は63.6%である。

- ・7月開催する第27回日本骨代謝学会のAsian sessionの感想を大会会長 米田委員に執筆いただくことを依頼し、了承された。

<第26回JBMM編集委員会>

日時: 2009年7月22日(水)14:00~14:45

場所: 大阪国際会議場 11階 1102会議室

出席者: 編集委員長:清野佳紀

Associate editors:大藪恵一、加藤茂明、杉本利嗣、野田政樹、

福永仁夫、松本俊夫(理事長)、吉川秀樹、米田俊之

学会事務局:中倉佳奈子、編集秘書:五郎大由似子

欠席者:Associate editors:遠藤直人、田中良哉、中村利孝、

細井孝之、山口 朗

Editors Emeritus:鈴木不二男、藤田拓男

清野佳紀委員長より資料に基づき説明があり、以下の事項を承認した。

1. 発行準備状況

27巻4号を7月に予定どおり発行し、7月10日に納品した。

27巻5号以降掲載論文は50論文が決定しており、順次、掲載する予定である。

27巻よりオンラインファーストによる制作を導入し、4号までの論文は、冊子発行前にオンラインファーストへ掲載した。5号以降掲載予定の論文もオンラインファーストに準備が出来次第掲載している。

2. 投稿状況

2009年1月1日~7月15日までに118編の投稿があった。前年同期は136編で、投稿数が1割強減少している。国別内訳は海外からの投稿が92編、国内からの投稿が26編である。

現在は79編が審査中である。

3. JBMM Best Paper Award 受賞者

JBMM Best Paper Award 受賞者は、2009年度論文賞は「Involvement of notch signaling in initiation of prechondrogenic condensation and nodule formation in limb bud micromass cultures」Vol.24(3)p.191-198, 2006, 藤巻亮二先生(佐野厚生総合病院整形外科)に日本骨代謝学会時に授与予定である。

4. インパクト・ファクター発表について

2009年度 JBMM のインパクト・ファクターは2.100と発表された。昨年1.425より大幅にアップした。

<Endocrinology & Metabolism 分野 IF 順位>

67位/93誌 (昨年度 81位/92誌)

本年度より、5年インパクト・ファクターも発表され、2.173である。

<Endocrinology & Metabolism 分野 5年 IF 順位>

63位/93誌

5. 制作費について

2007年に電子査読システムを導入したことに伴い、投稿が増加し、掲載論文も大幅に増加した。それにより、契約超過頁の割増し金額が増えた。この支出を圧縮するために編集委員長がシュプリングージャパン社と協議した。

今年も契約より大幅に掲載頁数が増加しそうであり、インデックスの省略をすることで超過100ページ分を割引してもらうことを約束いただいた。

なお、現行より見栄えが変わらない程度に紙を薄くすることで郵送費のコストも下げる、投稿規程を1号のみに掲載することで掲載頁を増やすことを、委員長が提案した。出席編集委員はその旨、賛成し、理事会に報告することとした。

6. その他

審査を依頼しても、なかなか審査してもらえない方や、自分が論文を投稿するにもかかわらず、論文の審査を拒否する方がおり、Associate editorの間でその情報を共有した。

また、論文審査時、Editorial managerで文献検索が容易にでき、それを参考に海外へレフェリーを依頼することもできる方法を確認した。

<第27回JBMM編集委員会>

日時: 2009年10月16日(水)17:15~17:45

場所: 千里ライフサイエンスセンタービル 6階 601

出席者:Associate editors:加藤茂明、杉本利嗣、野田政樹、

松本俊夫(委員長代理)、山口 朗、

吉川秀樹、米田俊之(理事長)

学会事務局:中倉佳奈子、編集事務局:五郎大由似子

欠席者: 編集委員長:清野佳紀

Associate editors:遠藤直人、大藪恵一、田中良哉、中村利孝、

福永仁夫、細井孝之

松本副理事長が、清野佳紀委員長の代理で資料に基づき司会進行を行い、以下の事項を承認した。

1. 制作費について

2007年に電子査読システムを導入したことに伴い、投稿が増加し、掲載論文も大幅に増加した。それにより、契約超過頁の割増し金額が増え、この支出を圧縮するために、編集委員長がシュプリングージャパン社と協議した。その結果、著者および目次インデックスの省略をすることとし、その代わりに一昨年持ち越した超過100ページ分を復活して割引することを約束し、前回理事会で報告した。

したがって、今年に掲載頁は昨年より80ページ増加する予定であるが、昨年度支払い額より約31万円強縮小できることとなった。

なお、来年からは若干紙を軽くすることで用紙代および会員発送費を下げ、投稿規程を1号のみに掲載することで掲載頁を増やす予定である。

2. 発行準備状況

27巻5号を9月に予定どおり発行し、9月4日(金)に発送した。

27巻6号以降掲載論文は52論文が決定しており、オンライン出版後、順次、掲載する予定である。

3. 投稿状況

2009年1月1日~10月6日までに176編の投稿があった。前年同期は200編で、投稿数が1割強減少している。現在は95編が審査中である。

国別内訳は海外からの投稿が 134 編、国内からの投稿が 42 編である。海外からの投稿は中国が 30 編、USA が 17 編である。それ以外は、世界各国からまんべんなく投稿を受け付けている。

2009 年度学術集會に招聘した Dr.Lynda Bonewald, Dr.David G.Roodman, 学術賞受賞論文、鄭 雄一 先生、伊東昌子先生はレビュー執筆を了承された。

4. マニュアル内容の確認

Editorial Manager について、Associate Editor 用マニュアル改訂版を配布し、便利な機能を編集事務局が説明した。

5. レフェリー謝辞掲載

昨年 7 月 1 日から今年 6 月 30 日まで審査いただいたレフェリー一名を 27 巻 6 号に謝辞とともに掲載する予定である。一方、本年現在までに審査したレフェリーの回数一覧によると、萩野浩先生が一番多く、次いで、竹内靖博先生、岩本潤先生、大藪恵一先生の順に多かった。

松本副理事長は、Bone で行っている Associate editor の採択率を JBMM でも算出し、エディター間の採択率の平準化を図ることを提案し、清野委員長に確認した上で、作成することとした。

6. J-STAGE へ和文誌 1 巻～5 巻収載について

J-STAGE に和文誌 1 巻～5 巻まで、無料で収載することを選択された。この席上、これらのバックナンバーを保管している方はいなかった。大阪大学図書館には蔵書があるが、貸与期間を延長してもらわなければならないので、米田理事長に交渉いただき、借りることを計画した。

7. オンライン個人パスワード付与について

JBMM の電子ジャーナルを閲覧する際、学会事務局から配布した token を利用して、ユーザー名とパスワードを取得することになったことと、個人 token をラベルに記載し、3 月の学会誌発送時に会員へ連絡したこと、そしてこの秋から今までの共通パスワードでは電子ジャーナルを閲覧できなくなったことを、学会事務局 中倉さんが報告した。

それに伴い、会員へ token および JBMM 電子ジャーナル閲覧方法を再度案内する予定で、その手紙の内容を確認し、一部訂正した。

8. その他

レフェリーが他のレフェリーのコメントを閲覧できるか、山口委員が質問し、メールでなく web 上でコメントを見ることができると説明した。

吉川委員より、臨床だけでなく、基礎の論文も審査したいと申し出られ、編集委員長へ編集事務局から連絡する。

<第 1 回ステロイド性骨粗鬆症管理と治療ガイドライン改訂委員会>

日時: 2009 年 7 月 25 日(土) 13 時 00 分～15 時 00 分

場所: 大阪国際会議場 8 階 805 会議室

出席者: 名和田 新(委員長)、鈴木康夫(副委員長)、大藪恵一、佐川 昭、宗圓 聡、田中郁子、

田中弘之、中山久徳、藤原佐枝子、三木隆己(各委員)

欠席者: 高柳涼一、田中良哉(委員)

名和田委員長より、開会の挨拶があり、本委員会の発足について

経緯の説明があった。続いて、各委員より自己紹介があった。

議 題 :

1. 海外のステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のガイドラインの動向

鈴木副委員長より、海外のステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のガイドラインの動向について主に以下の報告があった。

- ・アメリカ、イギリス、カナダ、オーストラリアのガイドラインは、その後改訂の動向が無い。
- ・各ガイドラインの予防治療的介入の目安を比較すると;
- ・アメリカのガイドラインは、プレドニゾン 5mg/日以上、低骨密度 T スコア<-1 未満となっている。
- ・イギリスのガイドラインは、3 カ月以上のステロイド投与を対象とし、65 歳以上の高齢、Tスコア-1.5 以下の低骨密度、および脆弱性骨折の 3 つの要因をあげている。
- ・カナダのガイドラインはステロイド 7.5mg/日以上、3 ヶ月以上投与をリスクとしている
- ・オーストラリアのガイドラインでは、リスク・ファクターとして、脆弱性骨折、低骨密度 T スコア<-1.5、をとりあげている。
- ・ベルギーのガイドライン(声明に近い形)では、対象を閉経後女性あるいは骨密度減少のある閉経後女性、あるいは男性で、ステロイド投与 7.5mg/日以上、3 ヶ月以上の継続投与としている。明確な作用があるのがアレンドロネートとリセドロネートである。
- ・スペインの内科学会より 2008 年に発行されたガイドラインでは、リスク・ファクターの有無により骨密度の Cut off 値を変えている。低骨密度(T スコア<1.5)があれば、閉経後女性では PSL2.5mg/日、閉経前女性あるいは男性では PSL 5mg/日、3 ヶ月以上の投与を介入の目安とする
- ・低骨密度がない場合、閉経後女性、脆弱性骨折もなければ PSL7.5mg/日、3 ヶ月以上を介入の目安とする。薬物療法は、アレンドロネートあるいはリセドロネートとカルシウムとビタミン D の併用を勧める。重症例については、副甲状腺ホルモンの投与を考慮する。

宗圓委員より、欧米で承認されているのがアレンドロネート、リセドロネート、PTH であり、それ以外は適用がない旨、報告があった。また、海外で 2001 年以降、新たなガイドラインを作成していない原因としては、FRAX の導入がある旨、補足説明があった。

2. 我が国のステロイド性骨粗鬆症の管理と治療のエビデンス

①1 次予防(GOJAS Study)

鈴木副委員長より、内科系にて行ったアレンドロネートと活性型ビタミン D、およびビタミン D 単独を比較した治験について報告があった。ステロイド投与後の腰椎骨密度減少に対して、アレンドロネート+活性型ビタミン D 治療は、活性型ビタミン D 単独に比べてより有効であった。新規骨折例は 3 例と少なかったが、全例閉経後女性であった。アレンドロネート+活性型ビタミン D 治療群で新規骨折を来した 1 例は、75 歳女性で治療前低骨密度であった。

②大腿骨近位部の骨密度測定の有用性と骨粗鬆症治療薬の効果

中山委員より、関節リウマチ患者 675 例(ステロイド使用者

は 69.8%、骨粗鬆症有病率は 53.3%、椎体骨折有病率は 19.3%)の検討結果について報告があった。骨折危険因子の解析結果では、年齢、既骨折の有無、およびプレドニゾロンの服用量についてはいずれも骨折率を高める旨、報告があった。関節リウマチ患者に対しての骨粗鬆症の効果については、アレンドロネート、リセドロネート、ラロキシフェンは 36 ヶ月の前向き試験の結果ほぼ同等の骨折抑制効果が得られた旨、報告があった。また、本ステロイドガイドラインはリウマチ患者にも適応される旨、合わせて報告があった。

③小児ステロイド骨粗鬆症

田中弘之委員より、小児のステロイド骨粗鬆症について、約 30 例を対象に検証した結果、アレンドロネートを使うと、Zスコアが増加することが判明したが、骨折予防効果については結論が出ていない旨説明があり、今後の課題としては、ステロイドの長期投与と、Z スコアで表した骨折閾値の関係について検討している旨、報告があった。

大菌委員より、小児の場合 Z スコアがきれいに測定できない問題について補足説明があった。

④FRAX について

藤原委員より、骨密度以外の因子から骨折率を測定するために WHO が開発したツール、FRAX について、報告があった。

3. 改訂における方向性と委員の先生方の意見

①一次予防を前面に出す。

エビデンスとして GHOJAS study と 産業医科大学の論文について、鈴木副委員長と田中良哉委員を中心に検討することとした。

②現在のガイドラインを検証し、危険因子の score 化の検討について、鈴木副委員長、田中郁子委員、宗圓委員、中山委員、藤原委員を中心に検討することとした。

(1)危険因子として既骨折、骨密度<80%、プレドニゾロン>5mg としてとらえているが、閉経と高齢の再検討

(2)危険因子としてプレドニゾロン>5mgの再検討

(3)危険因子として年齢の再検討

・65 歳以下でも閉経後になる場合があるため、年齢の因子を入れるのは重要である。

・年齢因子を入れる場合に、若年層について楽観視する傾向になる点を考慮しなければならない。

③小児ステロイド性骨粗鬆症の管理と治療ガイドライン

協議した結果、大菌委員、田中弘之委員が担当することとなった。

④顎骨壊死についてのコメント

協議した結果、エビデンスとしてのデータないため、使用する側から脚注のコメントを入れることとした。高柳委員、宗圓委員が担当することとなった。

また、ビスフォスフォネートについてはリスクがあるものとして扱った方がよい点について提案があった。

⑤ビタミンK2 のエビデンスの再検討

協議した結果、田中郁子委員が担当することとなった。

⑥ラロキシフェンの有効性の検証

協議した結果、高柳委員、中山委員、田中郁子委員が担

当することとなった。

⑦骨密度測定部位として的大腿骨近位部の有用性 協議した結果、中山委員が担当することとなった。

⑧ガイドラインがあまり活用されていない

鈴木副委員長、田中良哉委員、田中郁子委員、中山委員、藤原委員を中心に活用性を検討することとした。

なお、協議した結果、主に以下の意見があった。

・本ガイドラインの大枠について、専門家でない人にもわかりやすく実用的な観点を重視し、可能な限りフローチャート式にする。

・前回のガイドライン作成の際に、データ収集器官が偏っているとの意見があった。

・日本のエビデンスをもとに作成するため、FRAX のようなグローバルなチャートを併用できるかどうかは難しい面がある。

名和田委員長より、今回のガイドライン改訂のポイントとしては、エビデンスを考慮したものであることを基本とし、新たに小児のステロイド骨粗鬆症を追加すること、呼吸器、消化器などの症例を集めることについて提案があり、了承した。

全体を通して、症例の施設間の標準化や見解等について鈴木副委員長、田中郁子委員、藤原委員、中山委員を中心に担当することとなった。

<第 1 回椎体骨折評価委員会>

日時： 2009 年 7 月 23 日(木) 18 時 30 分～20 時 30 分

場所： 大阪国際会議場 8 階 801 会議室

出席者： 森 諭史(委員長)、伊東 昌子、加藤 義治、宗圓 聡、中野 哲雄、萩野 浩、藤原佐枝子(各委員)

同席者： 古賀 肇(日本骨粗鬆症学会事務局)、中倉佳奈子(日本骨代謝学会事務局)

森委員長より、開会の挨拶および日本骨形態計測学会、日本骨粗鬆症学会、日本骨代謝学会による 3 学会合同委員会立ち上げの経緯について報告があった。3 学会の評議員宛でのアンケートを行った結果の説明があった。本委員会では現行の椎体骨折評価基準をより現状に合わせて日常診療でも使用しやすいものにできないかを検討することになった。続いて、各委員より自己紹介があった。

議題：

報告事項

1)事務局より連絡事項

日本骨代謝学会事務局より各学会からそれぞれの代表委員の旅費を支出する旨、報告があった。

日本骨形態計測学会代表委員：

森 諭史委員長、加藤義治委員、藤原佐枝子委員

日本骨粗鬆症学会代表委員：

伊東 昌子委員、中野 哲雄委員

日本骨代謝学会代表委員：

宗圓 聡委員、萩野 浩委員

その他、事務関連について以下の旨、了承した。

・委員会開催は 3 学会の学術集会を中心に必要であれば会期以外でも行う。

・会場手配や出欠確認等の開催事務については、3 学会の

事務局が持ち回りで担当する。ただし、日本骨形態計測学会事務担当が決定するまでは、骨粗鬆症学会、骨代謝学会の2学会が交替で行う。

・小委員会が必要な場合は適宜開催する。

審議事項

1) 今後の行動計画

各委員より担当テーマについて報告があった。

森委員長：椎体骨折評価をめぐる現状

椎体骨折の分類および現行の椎体骨折判定基準について説明があり、椎体骨折評価について(1)既存骨折 vs. 新鮮骨折、(2)椎体変形の判定 Fracture vs. Non fracture deformity、(3)定量的 vs. 半定量的判定基準、(4)治療との関わり等の問題提起があった。

藤原委員：日本人の椎体骨折データ

疫学では国際的にも SQ をスタンダードにして椎体骨折を評価している。誰にでも診断でき、かつ再現性がある基準について要望があった。

伊東委員：治験における椎体骨折判定

薬剤治験ではSQ法を用いる割合が高くなってきている旨、説明があった。

萩野委員：治験における椎体骨折判定

臨床治験ではSQ法がよいとの報告があった。

宗圓委員：既存骨折と新規骨折の判定の課題

既存骨折と新規臨床骨折の判定はそれぞれ区分して論じたほうがよいのでとの提案があった。

MRI で椎体骨折を評価することは保険診療で認められないため、日常的診療での適応は難しいのではないかと意見があった。

中野委員：MRI による椎体骨折評価

MRI による早期の椎体骨折評価について、実際の臨床実績に基づく報告があった。

加藤委員：MRI による椎体骨折評価

椎体骨折評価における MRI の有用性について報告があった。

協議した結果、以下の点について了承した。

- ・日常の診療でSQ法の有用性が高まっているため、SQ法評価基準として取り入れることを検討する。そうした場合にQMとの位置づけをどのようにするのかを検討する。
- ・既存骨折、臨床骨折、と新鮮骨折など用語の定義と統一をすること。
- ・MRIによる椎体評価はすでにデータが揃っているので評価基準にどのように組み込むかを検討する。
- ・撮影方法について、写真のよみ方と計測の正確性の問題について検討する必要がある。

<第2回椎体骨折評価委員会>

日時： 2009年10月15日 15時～17時

場所： 名古屋国際会議場 4号館435

出席者： 森 諭史(委員長)、加藤 義治、宗圓 聡、
中野 哲雄、萩野 浩、藤原佐枝子(各委員)

同席者： 古賀 肇(日本骨粗鬆症学会事務局)、
中倉佳奈子(日本骨代謝学会事務局)

報告事項

1) 第1回椎体骨折評価委員会議事録が報告された。

審議事項

1) MRI 評価について

椎体骨折の診断にあたり MRI が次の2点で有用であるという見解が示された。第一に骨折の臨床症状がありながら脊椎XPを撮影しても現行の評価法では診断できない椎体骨折(新鮮骨折)の評価に MRI が有用である。次に既存、新規骨折においても骨折かどうかの鑑別にも MRI は有用である。今後どのような条件で撮像しどのような所見があれば骨折あるいは鑑別ができるのかについて一定の見解をだすことになった。

新鮮骨折の診断は中野委員が担当し、椎体骨折の鑑別については加藤委員が担当してMRI所見をまとめ、次回の委員会で試案を提示することになった。

椎体骨折の診断については今後、日本整形外科学会骨粗鬆症委員会や日本脊椎脊髄病学会にも打診して評価基準の整合性を得るようにすることとなった。

2) SQ 法による評価について

宗圓委員よりSQ法を椎体評価基準に入れることが提案された。SQ法の導入にあたり再現性を高める方法を引き続き検討することになった。

■公募情報■

<ノボ ノルディスク成長・発達研究賞 2010 募集要項>

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社では、「ノボ ノルディスク成長・発達研究賞 2010」を下記要領にて募集いたしております。

概要：

本研究賞は、小児期の成長・発達の内分泌学に関する研究、または成長ホルモン-インスリン様成長因子系に関連する研究を対象とし、当該領域の臨床研究の発展に寄与すると認められる研究に対して助成金を授与し、その研究支援を行います。

■募集研究課題：

- ①小児期の成長・発達の内分泌学に関する研究
- ②成長ホルモン-インスリン様成長因子系に関連する研究

■研究助成金総額： 1000万円(100万円×10研究課題)

■助成対象期間： 原則として1年間

■応募締切： 2010年3月25日(木)(当日消印有効)

■応募書類提出先：

ノボ ノルディスク成長・発達研究賞事務局

ノボ ノルディスク ファーマ株式会社

マーケティング本部情報企画部

〒100-0005 東京都千代田区丸の内 2-1-1 明治安田生命ビル

TEL：03-6266-1057 FAX：03-6266-1802 E-MAIL：

jphc_gh@novonordisk.com

■関連学会のお知らせ■

第14回国際内分泌学会議(ICE2010)骨代謝サテライトシンポジウム

会期：2010年3月31日(水) 14時～18時 *講演会終了後、懇親会を開催いたします。

会場：大阪国際会議場 12階 特別会議場

〒530-0005 大阪市北区中之島5丁目3番51号

ホームページ：<http://bone2010.umin.jp/>

Chair：大藪 恵一 大阪大学大学院医学系研究科情報統合医学講座小児科学

Co-Chair：吉川 秀樹 大阪大学大学院医学系研究科器官制御外科学(整形外科)

米田 俊之 大阪大学大学院歯学研究科口腔分子免疫制御学講座生化学教室

共催：エーザイ株式会社、中外製薬株式会社、帝人ファーマ株式会社、日本イーライリリー株式会社、
ノボ ノルディスク ファーマ株式会社、万有製薬株式会社、ファイザー株式会社

講演予定者：

★Roland Baron

Professor, Harvard Medical School, Boston, MA, USA

Professor, Department of Orthopedics and Rehabilitation, Yale University School of Medicine, New Haven, CT, USA

★Matthew L. Warman

Director, Orthopaedic Research Laboratories

Children's Hospital Boston, Boston, MA, USA

Investigator, Howard Hughes Medical Institute

Professor of Genetics and Orthopaedic Surgery, Harvard Medical School, Boston, MA, USA

★Harald Jüppner

Professor of Pediatrics, Endocrine Unit, Massachusetts General Hospital and Harvard Medical School, Boston, MA, USA.

★Kenneth White

Assistant Professor, Department of Medical and Molecular Genetics, Indiana University School of Medicine, Indianapolis, IN, USA

★石井 優

大阪大学免疫学フロンティア研究センター 生体イメージング研究室 主任研究者(特任准教授)

★斎藤 充

東京慈恵会医科大学整形外科学 講師

★鍋島 洋一

京都大学大学院医学研究科病理系腫瘍生物学 教授

★深田 俊幸

理化学研究所 免疫アレルギー科学総合研究センターサイトカイン制御研究グループ 上級研究員

大阪大学大学院医学研究科免疫アレルギー科学 招聘准教授

参加登録(当日登録)：一般5,000円、学生1,000円

問い合わせ先：

骨代謝サテライトシンポジウム事務局 難波 範行 bone@ped.med.osaka-u.ac.jp

第3回国際骨免疫学会議 -3rd International Conference on Osteoimmunology: Interactions of the Immune and Skeletal Systems - 開催のお知らせ

1. 学会議開催日時・場所

会期：平成22年6月20日～平成22年6月25日

場所：サントリー二島、ギリシャ (Fira: Nomikos Conference Center)

2. 本学会議に関する問い合わせ

国際骨免疫学会議日本世話人会 高柳 広

第3回国際骨免疫学会議 担当秘書 吉永 利絵

〒113-8549 東京都文京区湯島1-5-45

東京医科歯科大学大学院医歯学総合研究科分子情報伝達学

電話 03-5803-5471 Fax 03-5803-0193

3. 参加登録等に関する詳細：第3回国際骨免疫学会議日本語ホームページ

URL: <http://osteimmunology.com>

第30回日本骨形態計測学会

会期：2010年5月13日(木)～15日(土)

会場：米子コンベンションセンター BIG SHIP (鳥取県米子市)

会長：岸本 英彰 (山陰労災病院 整形外科 部長)

ホームページ：<http://www.procomu.jp/jsbm2010/index.html>

The 37th European Symposium on Calcified Tissues -26-30, June, 2010

会期：2010年6月26日(土)～30日(水)

会場：Scottish Exhibition and Conference Centre (SECC) (Glasgow)

ホームページ：<http://www.ectsoc.org/glasgow2010/index.htm>

第43回日本整形外科学会 骨・軟部腫瘍学術集会

会期：2010年7月15日(木)～16日(金)

会場：京王プラザホテル (東京都新宿区)

会長：大幸 俊三 (日本大学医学部附属練馬光が丘病院 整形外科 教授)

テーマ：困難な悪性骨・軟部腫瘍に対する外科療法の挑戦と若手医師の育成

ホームページ：<http://www.congre.co.jp/joa-tumor43/index.html>

The ASBMR(The American Society for Bone and Mineral Research) 2010 Annual Meeting

会期：2010年10月15日(金)～19日(火)

会場：Metro Toronto Convention Centre, South Building Toronto (Canada)

演題登録締切：2010年4月14日(水)

ホームページ：<http://www.asbmr.org/Meetings/AnnualMeeting.aspx>

第13回癌と骨病変研究会

会期：2010年11月19日(水)～26日(木)

会場：千代田放送会館

ホームページ <http://www.sec-information.net/jscbd/top.html>



**2010 ISBM New Membership Registration
SIGN UP FOR YOUR MEMBERSHIP TODAY!**

**Members of the Bone Research Community:
You are cordially invited to join the International Society of
Bone Morphometry.**

Please consider joining the International Society of Bone Morphometry (ISBM). The mission of ISBM is to emphasize the importance of traditional morphometric techniques in the field of bone research, to embrace new technologies that result in refinements and advances in bone morphometric analyses, and to facilitate the education and training of basic scientists and clinicians in all aspects of bone morphometry. Individuals eligible for membership include persons with a doctoral degree or research experience equivalent to that required for such a degree, students in training, and technicians with an interest in bone morphometry. The annual membership dues are a modest US \$50.

Benefits of ISBM membership include:

- Reduced registration fees for ISBM Congresses
- Free access to a Members Only section of the ISBM web site, which provides details for current methods in bone morphometry
- Eligibility for ISBM awards and fellowships

Please visit the ISBM web site at www.bonemorphometry.org and consider joining our society.

Tom Wronski
President, ISBM



**About the International Society of
Bone Morphometry**

The International Society of Bone Morphometry (ISBM) was founded to provide a formal basis to the efforts started by a small group of pioneers in histomorphometry. The early group comprised Dr Jaworski, Dr Meunier, Dr Jee, Dr Arnold, and Dr Frost.

IN OTHER NEWS:

**JOIN US FOR OUR 2010 ISBM NEW
MEMBERSHIP SIGN-UP.**

New ISBM members registration and sign-up is now available.

To join the ISBM Members Only area, please take a moment to complete our membership application process & create your new member login and password. That's all it takes.

[SIGN UP FOR YOUR MEMBERSHIP
HERE](#) ➔

**NEW ISBM MEMBERS ONLY
FEATURES:**

Our new ISBM Members Only area offers a way for ISBM members to share current bone morphometric methods with other members.

[Read More](#) ➔

UNSUBSCRIBE

Not interested in this email? [Unsubscribe](#) .

IBMS への入会のご案内

The International Bone and Mineral Society (IBMS)は世界 64 カ国に会員約 2,500 名を有する世界最大規模の骨代謝分野の国際学会です。IBMS は日本骨代謝学会、European Calcified Tissue Society (ECTS) および The American Society for Bone and Mineral Research (ASBMR)と 2 年に 1 度 Joint Meeting を開催し、各地域における研究の発展に尽力しています。

また、2013 年には、日本骨代謝学会との Joint Meeting が開催される予定です。今後もより一層 IBMS との関係をより深めつつ、相互の会員の利益になるため会員の皆様には、ぜひ IBMS へ入会くださいますよう、ご案内申し上げます。

詳しい情報ならびにお申込につきましては、

IBMS ホームページ

<http://www.ibmsonline.org/> membership のページより、
ご覧ください。

日本骨代謝学会は、運動器の 10 年日本委員会に加盟しています。



「運動器の10年」世界運動